

神戸市営

筒井住宅

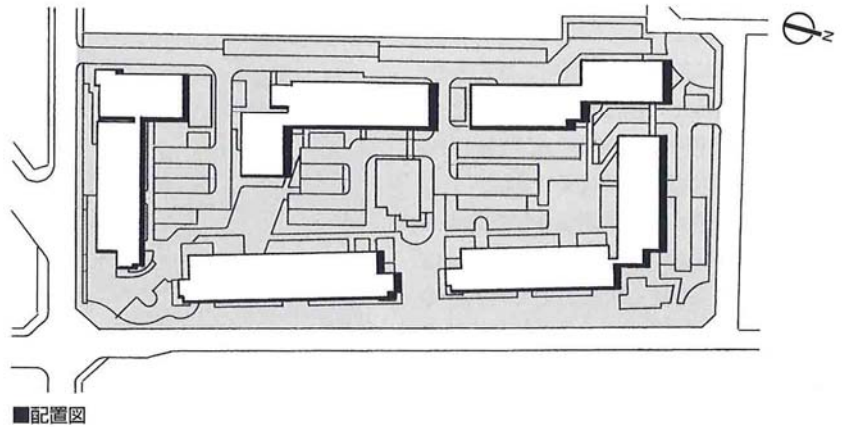
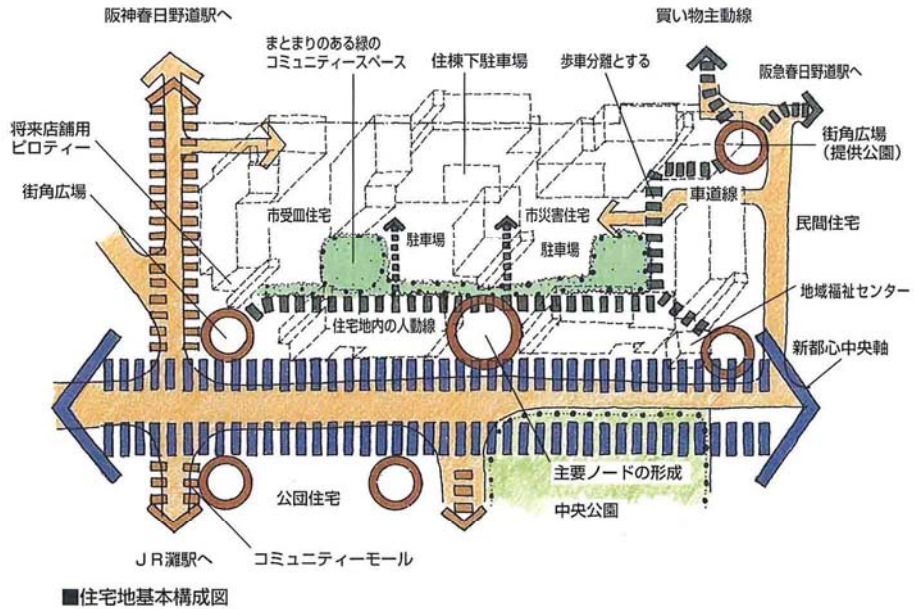
1995
~96

当計画は神戸市の住宅市街地に囲まれた都心立地の面的な公営住宅（約2.18ha、575戸）であり、東部新都心内陸部における震災復興住宅建設のリーディングプロジェクトとして公的住宅の早期かつ集中的供給が望まれていた。

既成市街地に調和した街区を形成するため、街区形成型建物配置（中庭囲い型）を基本とした。

周辺街路のうち東側、南側は共に東部新都心における下町居住ゾーンの中心的街路（東側：新都心軸、南側：コミュニティーモール）に位置づけられ、6~8層を中心とした沿道型住棟によりヒューマンな街路空間を形成しつつ、他は高層化（10~14層）し、戸数の集積を図っている。高密度開発であるため、住棟1階に駐車場や駐輪場を組み込み、できる限り中庭の緑空間を確保した。

各街路の交差部はノード空間として個性ある街角広場を設け、又、住棟全体に階数の変化をつけながら、連続性ある景観を形成した。



■外観パース